

# 平成 26 年度冷凍野菜小売販売動向調査

## 報 告 概 要

平成 27 年 2 月

独立行政法人 農畜産業振興機構

# 目次

## I 調査概要

1 調査目的	1
2 調査方法	1
(1) 調査対象期間	1
(2) 調査対象店舗	1
(3) 収集POSデータから冷凍ト野菜データを抽出する方法	1
(4) POSデータの分類方法	1
(5) POSデータの出力項目及び集計方法	2

## II 調査結果の概要

1 年別推移	3
(1) メーカー数とアイテム数の推移	3
(2) 千人当たりの販売金額と販売個数の推移	3
(3) 平均価格の推移	5
2 品目別比率	6
3 品目別動向	7
(1) 増加した主な野菜	7
① ほうれんそう	7
② 混合冷凍野菜	8
③ ブロッコリー	9
④ コーン	10
⑤ ばれいしょ	11
⑥ さといも	12
(2) 減少した主な野菜	13
① かぼちゃ	13
② ごぼう	14
③ かんしょ	15
④ えだまめ	16
4 野菜を使用した冷凍調理食品の品目別動向	16

## III 冷凍野菜全体の市場規模推計

17

## IV 今後の冷凍野菜の消費

18

# I 調査概要

## 1 調査目的

冷凍野菜について、平成 22 年度から平成 25 年度までの POS（Point of Sales、販売時点情報管理）データを収集し、小売店における冷凍野菜の販売量、販売金額等を調査することで、冷凍野菜の直近の需要動向を把握し、今後の野菜の需給安定の取組みに当たっての基礎資料とすることを目的に実施した。

なお、調査対象とした「冷凍野菜」全体の範囲は以下のとおり。

スーパー等の冷凍野菜の売り場で販売されている、

### ① 冷凍野菜

フライドポテト、加熱、カットなど簡便な加工をした冷凍野菜（ミックス野菜を含む）

### ② 冷凍調理食品

野菜を主原料とした調理食品、餃子など野菜を使用した調理食品

## 2 調査方法

### (1) 調査対象期間

平成 22 年 4 月から平成 26 年 3 月まで

### (2) 調査対象店舗

㈱KSP-SP 及び㈱流通システム開発センターが収集している全国のスーパーマーケット（平成 26 年 3 月時点で 150 チェーン約 951 店舗）。

### (3) 収集 POS データから冷凍野菜データを抽出する方法

JICFS 分類\*の「冷凍食品」の中の「冷凍農産素材」「冷凍調理」に属する POS データ（アイテム群）から、野菜および野菜を使用した冷凍調理食品を抽出。

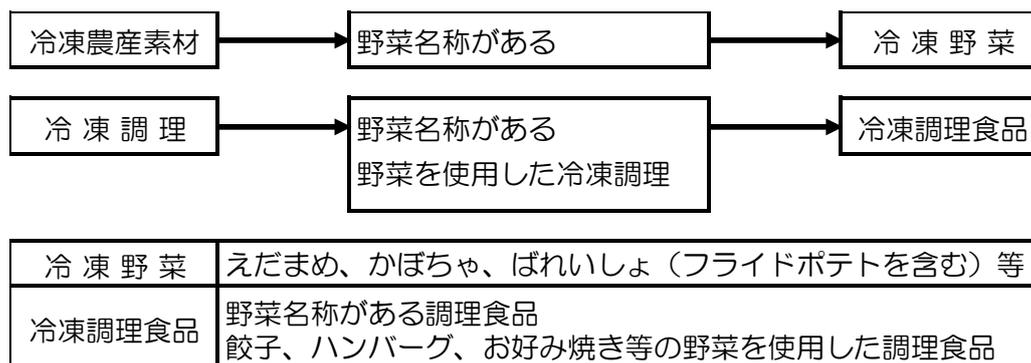
### (4) POS データの分類方法

㈱流通システム開発センターの分類に基づき、抽出した POS データを以下のとおり商品名により分類した。

① 「冷凍農産素材」に属し、商品名に「野菜」の名称が含まれているアイテムを「冷凍野菜」に分類した（フライドポテトを含む）。

② 「冷凍調理」の中で、①を除いた野菜を使用したものを「冷凍調理食品」と分類した。

図 1 POS データの分類方法



(5) POS データの出力項目及び集計方法  
出力項目及び集計方法は表 1 のとおり。

表 1 POS データの出力項目及び集計方法

項目	月別データ	年別データ
アイテム数	商品コードの集計値	合計値は、月別の重複を避けた値
メーカー数	メーカーコードの集計値 合計値は、小分類の重複を避けた値。	合計値は、月別の重複を避けた値
販売金額（税抜、円）	販売金額の集計値	月別集計値の合計
販売個数	販売個数の集計値	月別集計値の合計
来店客数	全店舗来店客数	月別集計値の合計
千人当たり販売金額（税抜、円）	月別販売金額の合計を月別来店客数で除して 1000 を乗じた値の集計値 （地域や業態の規模、収録店舗数の変動に影響なく商品の売れ行きを計ることができる指標）	年間販売金額の合計を年間来店客数で除して 1000 を乗じた値の集計値
千人当たり販売個数	月別販売個数の合計を月別来店客数で除して 1000 を乗じた値の集計値 （地域や業態の規模、収録店舗数の変動に影響なく商品の売れ行きを計ることができる指標）	年間販売個数の合計を年間来店客数で除して 1000 を乗じた値の集計値

※ JICFS とは、JAN Item Code File Service の略称で、財団法人流通システム開発センターが管理運営を行う「JAN コード商品情報データベース」システムを指し、JICFS 分類は、本データベースに収録された JAN コード商品情報を効率よく利用できるように設定された JICFS 用の商品分類コード。

（留意事項）

本調査の使用に際しては、集計に用いた POS データには、安価な独自ブランドの販売が多い大型総合スーパーのデータが含まれていないことを考慮しておく必要がある。

## II 調査結果の概要

### 1 年別推移

#### (1) メーカー数とアイテム数の推移

メーカー数は、増加傾向にあったが平成 25 年度には減少に転じた。

アイテム数は、緩やかな減少傾向で推移していたが 25 年度は前年並みとなった（図 2）。アイテム数の内訳を見ると、冷凍野菜は、販売が少ないアイテムの淘汰が進んでいることなどから減少傾向にあり、冷凍調理食品は、23 年度は減少したが 24 年度以降は増加傾向となっている（図 3）。

図 2 メーカー数とアイテム数の推移

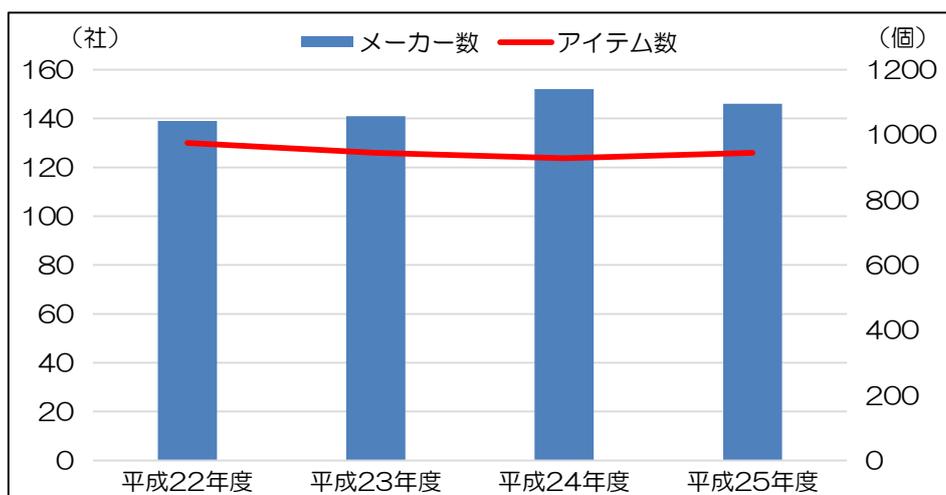
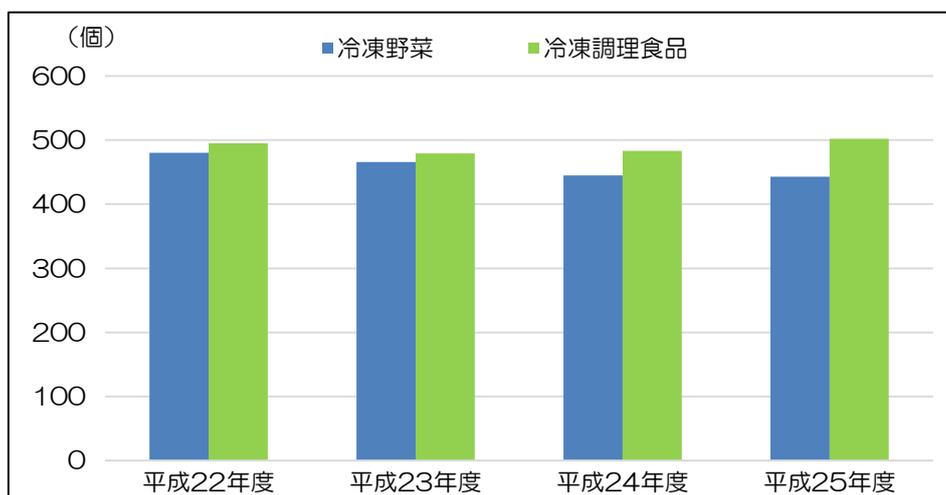


図 3 分類別アイテム数の推移



#### (2) 千人当たりの販売金額と販売個数の推移

冷凍野菜全体の千人当たりの販売金額、個数は、23 年 3 月の東日本大震災により調理が簡便な冷凍食品の需要が増加し 24 年度までは増加傾向であったが、25 年度では前年度並みとなっている。内訳を見ると、千人当たりの販売金額は、冷凍野菜が 24 年度に若干減少したが 25 年度では増加に転じ、冷凍調理食品は 24 年度までは増加傾向であったが 25 年度は前年並みとなった（表 2）。千人当たりの販売個数は、冷凍野菜が 24 年度以降、緩やかな減少傾向となっており、冷凍調理食品は 24 年度

までは増加傾向であったが 25 年度は前年度並みとなった（表 3）。

表 2 冷凍野菜の千人当たりの販売金額の年別推移

（単位：円、％）

	全 体		冷凍野菜		冷凍調理食品	
	千人当たりの販売金額	対前年度	千人当たりの販売金額	対前年度	千人当たりの販売金額	対前年度
平成22年度	8,391		2,757		5,634	
平成23年度	8,882	106	2,910	106	5,972	106
平成24年度	9,102	102	2,816	97	6,286	105
平成25年度	9,103	100 (108)	2,892	103 (105)	6,211	99 (110)

注：（ ）内は対平成 22 年度の数値

表 3 冷凍野菜の千人当たりの販売個数の年別推移

（単位：個、％）

	全 体		冷凍野菜		冷凍調理食品	
	千人当たりの販売個数	対前年度	千人当たりの販売個数	対前年度	千人当たりの販売個数	対前年度
平成22年度	46.5		16.9		29.6	
平成23年度	49.3	106	17.9	106	31.5	106
平成24年度	50.9	103	17.5	98	33.4	106
平成25年度	50.1	98 (108)	17.5	100 (103)	32.6	98 (110)

注：（ ）内は対平成 22 年度の数値

図 4 冷凍野菜全体の千人当たりの販売個数と販売金額の推移

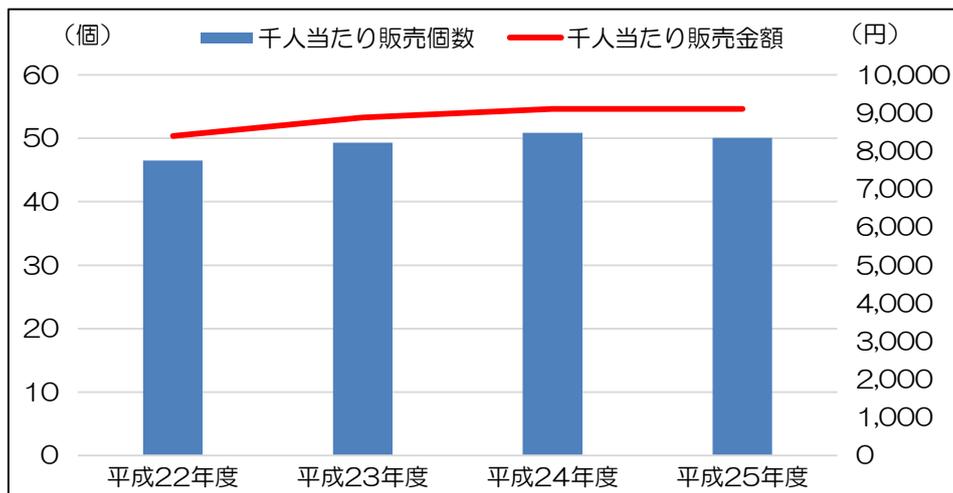


図5 冷凍野菜の千人当たりの販売個数と販売金額の推移

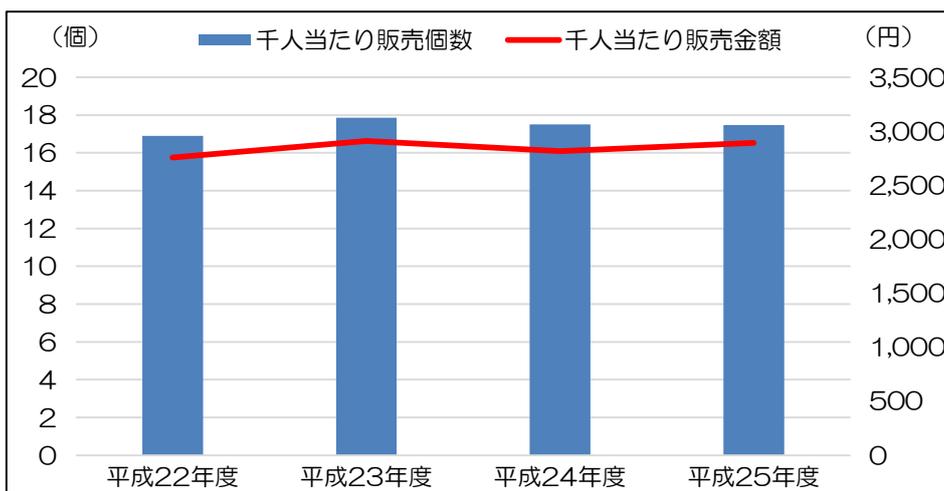
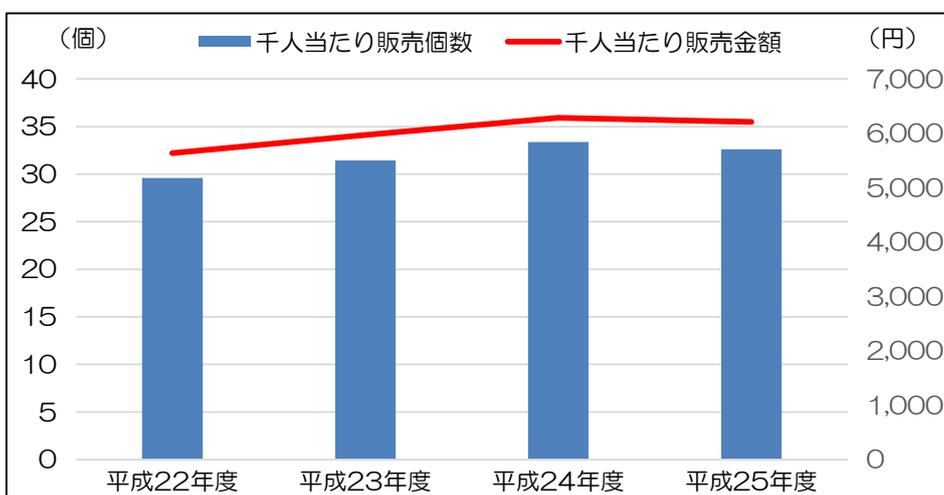


図6 冷凍調理食品の千人当たりの販売個数と販売金額の推移



(3) 平均価格の推移

一個当たりの平均販売価格は、安定して推移している。

表4 平均販売価格の年別推移

(単位：円、%)

	全 体		冷凍野菜		冷凍調理食品	
	平均価格	対前年度	平均価格	対前年度	平均価格	対前年度
平成22年度	180		163		190	
平成23年度	180	100	163	100	190	100
平成24年度	179	99	161	99	188	99
平成25年度	182	102 (101)	166	103 (102)	190	101 (100)

注：( ) 内は対平成22年度の数値

## 2 品目別比率

冷凍野菜および野菜名称がある冷凍調理食品の千人当たり販売金額の品目別割合は、25年度では、ばれいしょ、えだまめ、混合冷凍野菜（ミックスペジタブルおよび複数の野菜を組み合わせた野菜ミックス）、ほうれんそう、かぼちゃの5品目が70%以上を占め、上位5品目にコーン、さといも、ブロッコリー、いんげん、茶豆を加えた10品目で91%を占めている。

22年度と25年度の増減率を品目別の寄与度（平成22年度に対する平成25年度の増加率4.45%の品目別内訳）で見ると、ほうれんそう、混合野菜、ブロッコリー、コーン、ばれいしょ、さといもなどが増加し、かぼちゃ、ごぼう、かんしょ、えだまめなどが減少している。この結果、25年度では、混合冷凍野菜、ほうれんそうの増加、かぼちゃの減少により、混合冷凍野菜、ほうれんそうが、ばれいしょ、えだまめに次ぐ品目となった。

図7 千人当たり販売金額の品目別割合  
（平成22年度と平成25年度の比較）

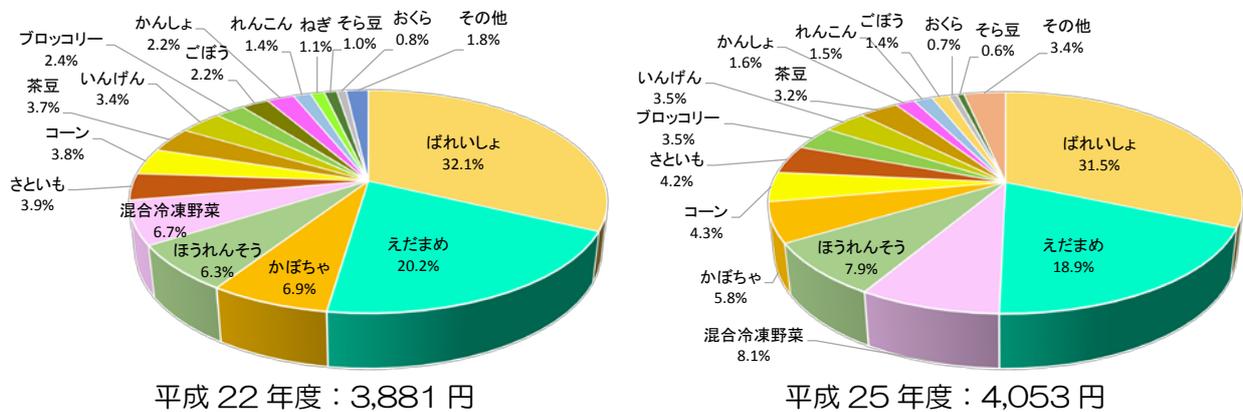


表5 増加率4.45%における品目別寄与度  
（平成22年度と平成25年度の比較）

(単位：円、%)

	22年度	25年度	増減	寄与度
ほうれんそう	246	319	73	1.88
混合冷凍野菜	261	330	69	1.77
ブロッコリー	93	141	47	1.22
ばれいしょ	1,246	1,277	31	0.79
コーン	149	176	27	0.69
さといも	150	168	19	0.49
茶豆	143	131	-12	-0.31
そら豆	40	23	-16	-0.42
えだまめ	784	764	-20	-0.50
かんしょ	86	64	-22	-0.56
ごぼう	87	57	-30	-0.78
かぼちゃ	267	236	-31	-0.79
その他	330	368	38	0.97
計	3,881	4,053	173	4.45

### 3 品目別動向（冷凍野菜および野菜名称がある冷凍調理食品）

#### (1) 増加した主な野菜

##### ① ほうれんそう

千人当たりの販売個数、販売金額は、忙しい朝の朝食や弁当向け需要が増加していることから、25年度は22年度に比べて30%増加した。内訳を見ると、ほうれんそうが同26%と増加するとともに、調理ほうれんそうが、主要輸入国である中国において生産・加工における安全性が確保されている13社の輸入自粛措置が解除されたことにもない輸入数量が増加したこと、個食に対応した「ほうれんそう小鉢」など小分タイプの製品開発などにより、金額は少ないものの、その他調理が同5倍と大幅な増加となっている。

図8 ほうれんそう千人当たり販売個数と販売金額の推移

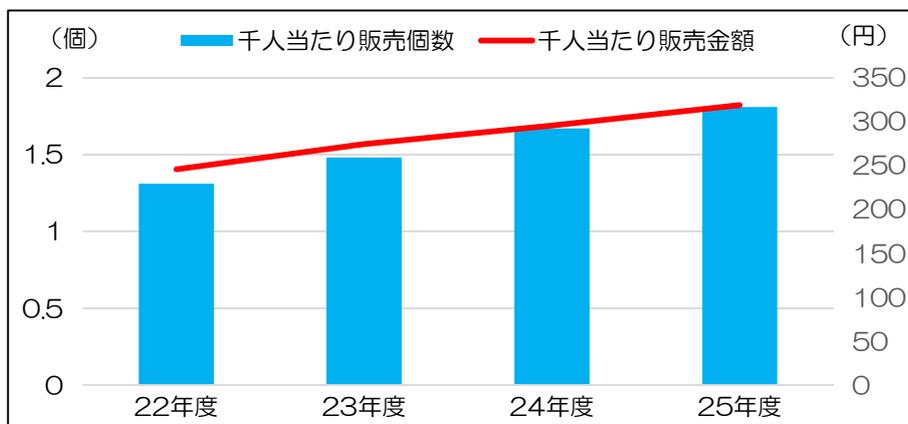


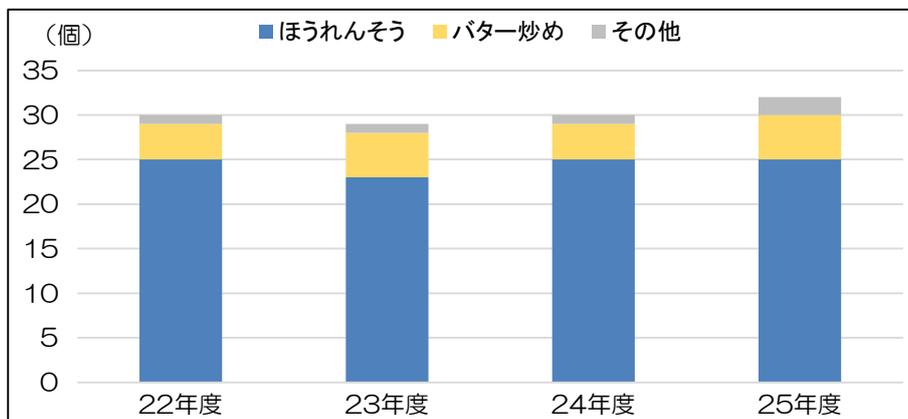
表6 ほうれんそう千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
全体	246	274	296	319 ( 130 )
ほうれんそう	153	172	169	193 ( 126 )
バター炒め	85	100	92	88 ( 103 )
その他調理	8	2	35	38 ( 505 )

注：( ) 内は対平成22年度の数値

図9 ほうれんそうアイテム数の推移



② 混合冷凍野菜

千人当たりの販売個数、販売金額は、同 26%増加したが 25 年度では若干の減少となった。内訳を見ると、ミックスベジタブルが 24 年度以降減少したこともあり同 10%増加となった。複数の野菜をパッケージした「野菜ミックス」は、煮込み用などの和風ミックス、サラダ用などの洋風ミックスの増加により同 65%と大幅に増加した。

図 10 混合冷凍野菜千人当たり販売個数と販売金額の推移

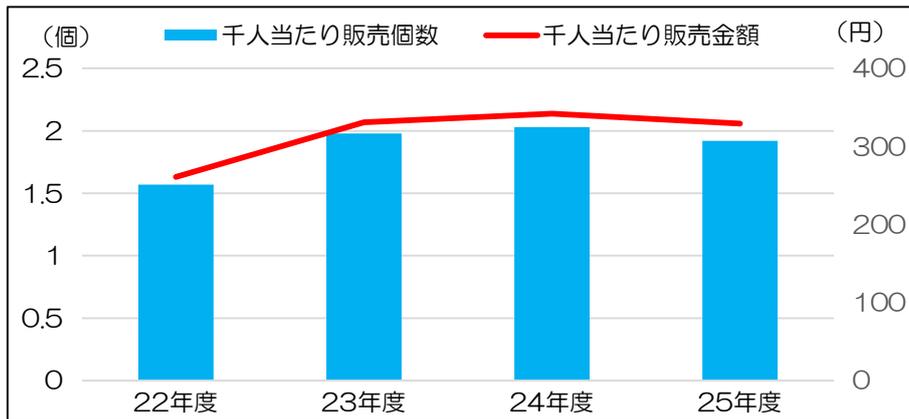


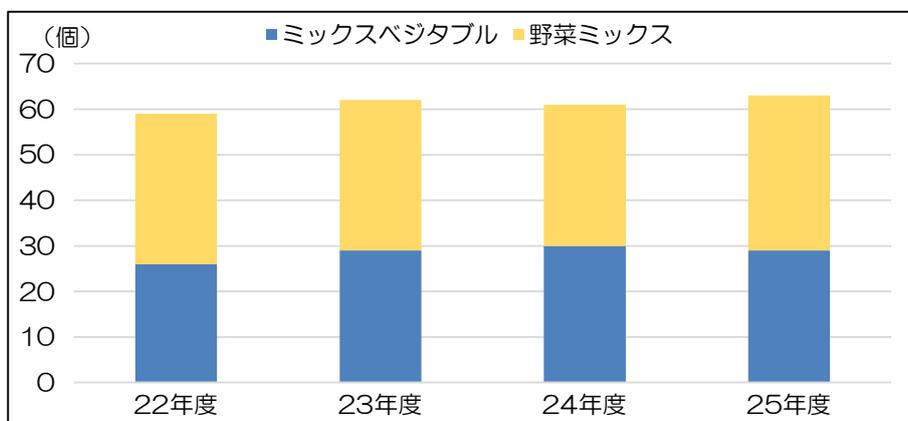
表 7 混合冷凍野菜千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
全体	261	331	342	329 ( 126 )
ミックスベジタブル	184	226	218	203 ( 110 )
野菜ミックス	77	105	124	127 ( 165 )
和風ミックス	57	74	70	69 ( 121 )
洋風ミックス	6	16	45	52 ( 823 )
その他ミックス	14	15	9	5 ( 37 )

注：( ) 内は対平成 22 年度の数値

図 11 混合冷凍野菜アイテム数の推移



### ③ ブロッコリー

千人当たりの販売個数、販売金額は、忙しい朝の朝食需要などの増加や食品ロスが少なく（可食部のパッケージ）調理が簡便であることなどにより、同 51% の大幅な増加となった。一方、アイテム数は、販売量の多い製品規格への集約化、輸入海外産地が中国、エクアドルなどに集約されたことから減少傾向となっている。

図 12 ブロッコリー千人当たり販売個数と販売金額の推移

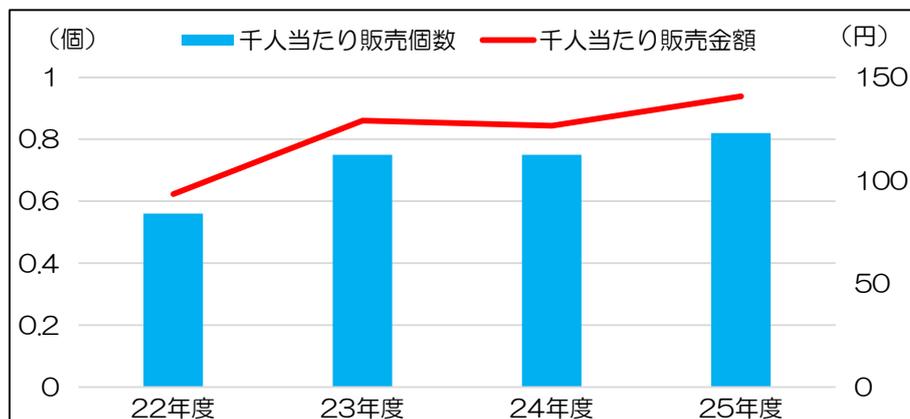


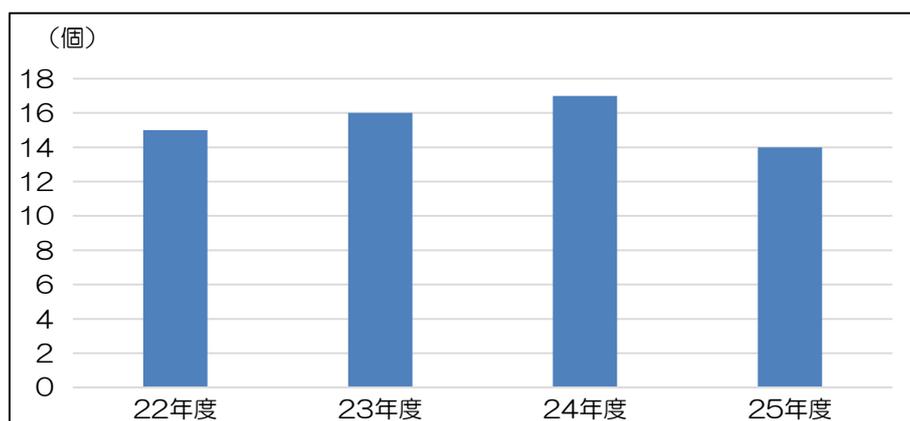
表 8 ブロッコリー千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
ブロッコリー	93	129	127	141 ( 151 )

注：( ) 内は対平成 22 年度の数値

図 13 ブロッコリーアイテム数の推移



④ コーン

千人当たりの販売個数、販売金額は増加傾向にあったが、25年度では国内産地の不作による国内生産量の減少したこともあり同 18%の増加となった。

図 14 コーン千人当たり販売個数と販売金額の推移

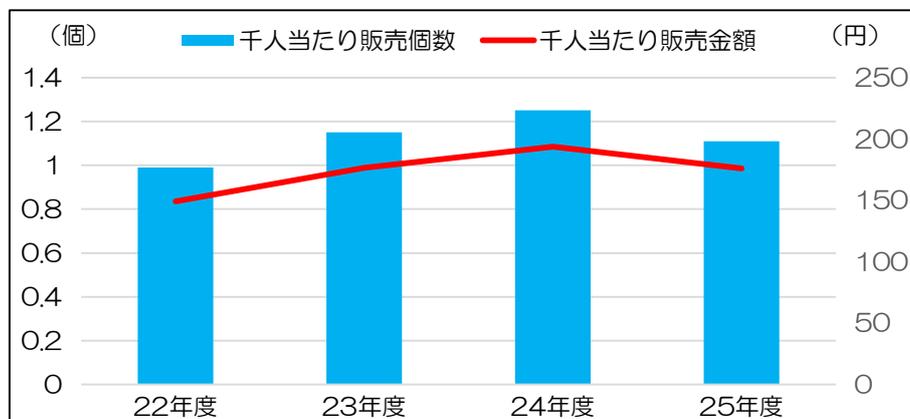


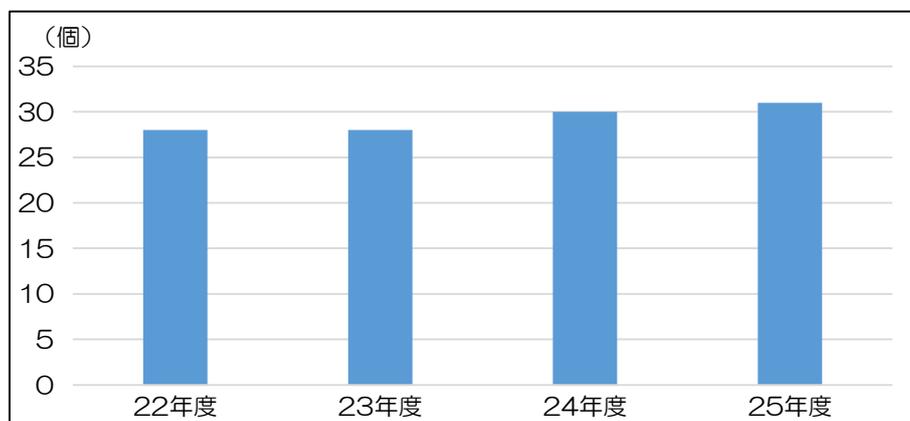
表9 コーン千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
コーン	149	176	194	176 ( 118 )

注：( ) 内は対平成 22 年度の数値

図 15 コーンアイテム数の推移



⑤ ばれいしょ

千人当たりの販売個数、販売金額は、安定した推移となっている。内訳を見ると、ばれいしょが安定して推移する中、ハッシュドポテト、ベーコン・肉巻ポテトが朝食需要などの増加から増加傾向となっている。ポテトフライ、コロッケは、スーパー、コンビニエンスストアの店舗調理品や惣菜との競合もあって減少傾向にあると推察される。

図 16 ばれいしょ千人当たり販売個数と販売金額の推移

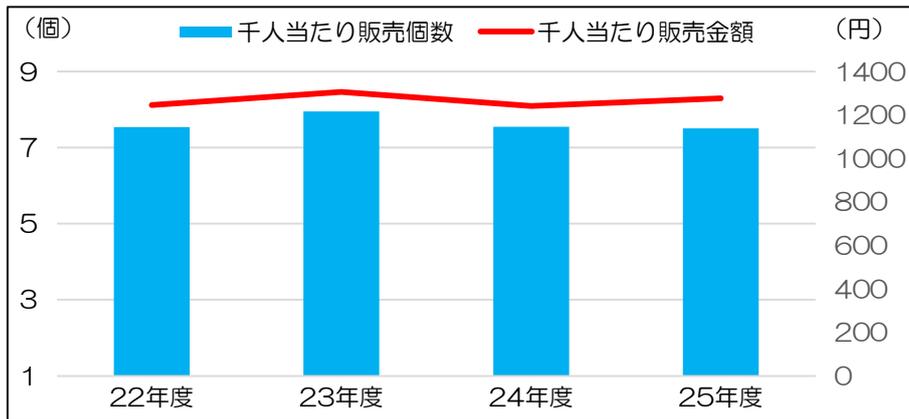


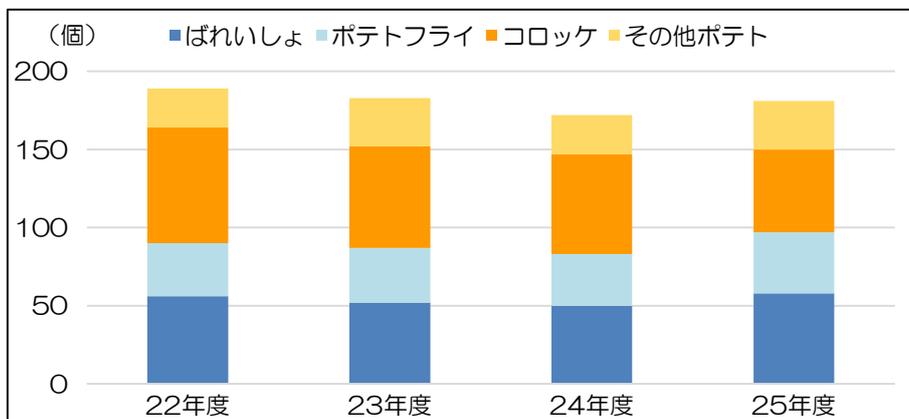
表 10 ばれいしょ千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
全体	1,246	1,306	1,241	1,277 ( 102 )
ばれいしょ	467	464	432	482 ( 103 )
ポテトフライ	178	192	182	173 ( 97 )
ばれいしょコロッケ	312	351	305	272 ( 87 )
ベーコン・肉巻ポテト	141	154	182	180 ( 128 )
ハッシュドポテト	116	121	127	152 ( 131 )
ジャーマンポテト	13	6	6	3 ( 25 )
その他調理	20	19	6	14 ( 69 )

注：( ) 内は対平成 22 年度の数値

図 17 ばれいしょアイテム数の推移



⑥ さといも

千人当たりの販売個数、販売金額は、輸入の太宗を占める中国における連作障害による作付面積減少、中国国内需要の増加による輸入価格の上昇から、一個当たりの平均販売価格は、22年度の150円から25年度の168円に上昇し、同13%増加となった。一方、アイテム数は、中国からの輸入減少による製品規格の集約化により減少傾向にある。

図 18 さといも千人当たり販売個数と販売金額の推移

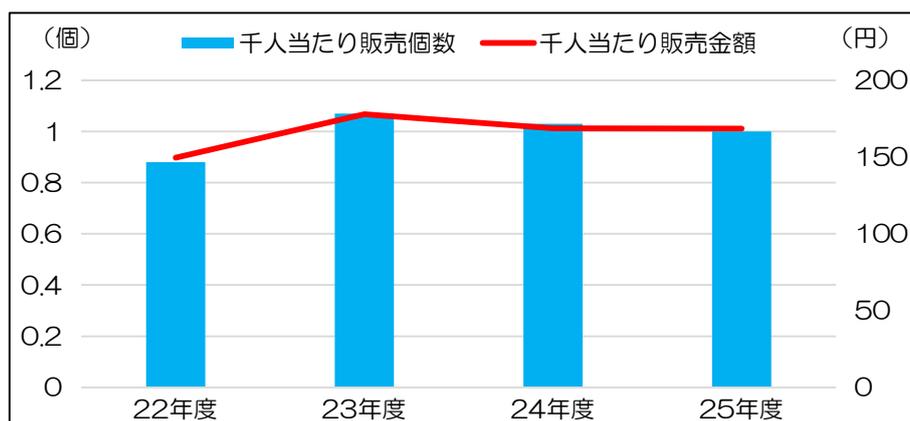


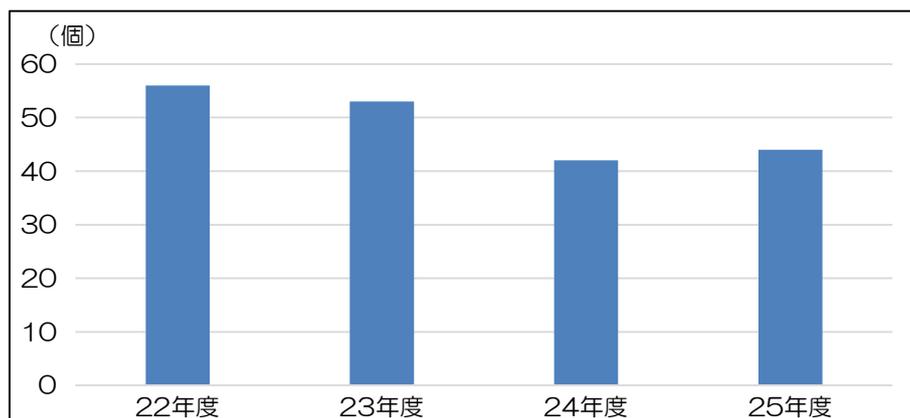
表 11 さといも千人当たり販売金額の推移

	22年度	23年度	24年度	25年度
さといも	150	178	169	168 ( 113 )

(単位：円、%)

注：( )内は対平成22年度の数値

図 19 さといもアイテム数の推移



## (2) 減少した主な野菜

### ① かぼちゃ

千人当たりの販売個数、販売金額は、天候不順による国内原料の供給量減少により減少傾向となっている。内訳を見ると、コロッケが安定した水準で推移しているものの、かぼちゃが同 24%減と大幅に減少した。

アイテム数は、国内生産量の減少による製品規格の集約化により減少傾向となっている。

図 20 かぼちゃ千人当たり販売個数と販売金額の推移

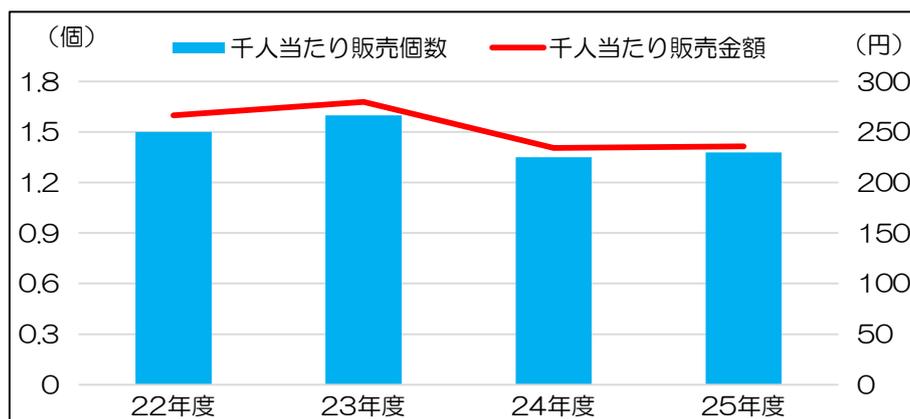


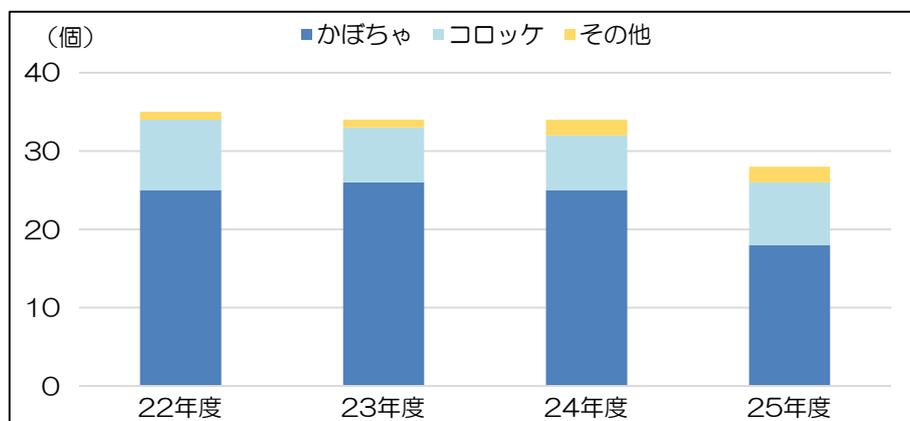
表 12 かぼちゃ千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
全体	267	280	234	236 ( 89 )
かぼちゃ	105	104	81	79 ( 76 )
かぼちゃコロッケ	138	159	138	138 ( 100 )
その他調理	24	17	15	19 ( 78 )

注：( ) 内は対平成 22 年度の数値

図 21 かぼちゃアイテム数の推移



② ごぼう

千人当たりの販売個数、販売金額は、混合冷凍野菜の煮物用野菜ミックスの増加などによりごぼうが減少傾向にあり、また、きんぴらなどの調理ごぼうも大幅な減少傾向にある。アイテム数も、減少傾向となっている。

図 22 ごぼう千人当たり販売個数と販売金額の推移

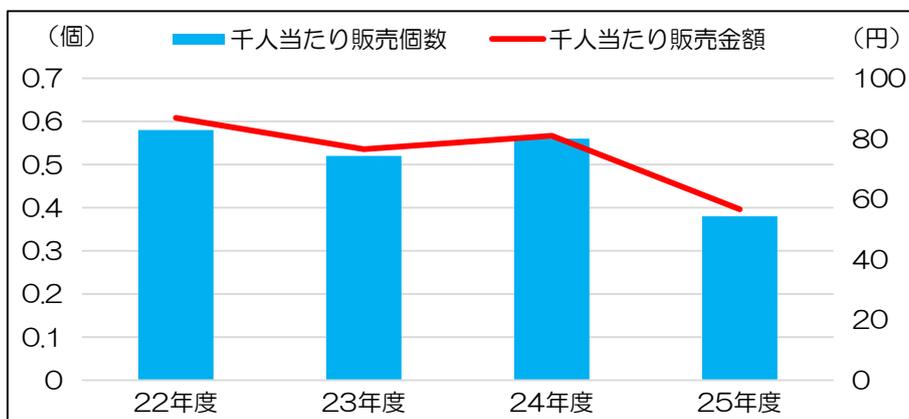


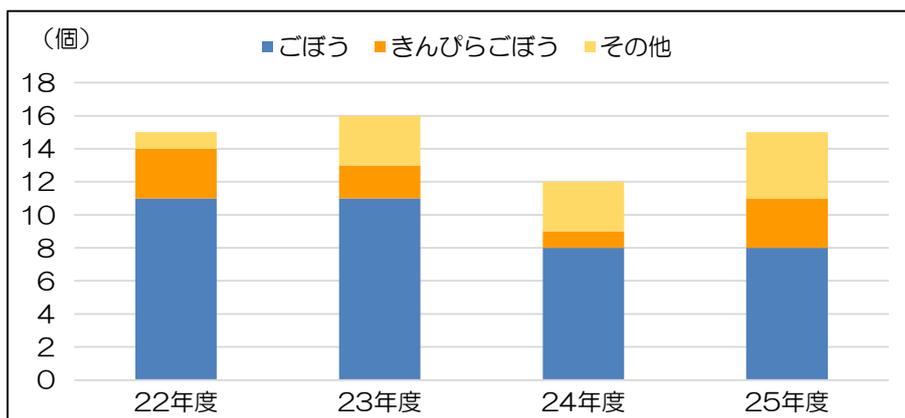
表 13 ごぼう千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
全体	87	77	81	57 ( 65 )
ごぼう	18	16	15	13 ( 75 )
きんぴら	45	39	33	24 ( 53 )
その他調理	24	22	33	19 ( 82 )

注：( )内は対平成 22 年度の数値

図 23 ごぼうアイテム数の推移



### ③ かんしょ

千人当たりの販売個数、販売金額は、国産かんしょは増加しているものの、食味が劣る中国産を原料とするスイートポテト、大学いもなどの調理かんしょが大幅な減少となっている。アイテム数も、24年度は増加したものの、趨勢としては緩やかな減少傾向となっている。

図 24 かんしょ千人当たり販売個数と販売金額の推移

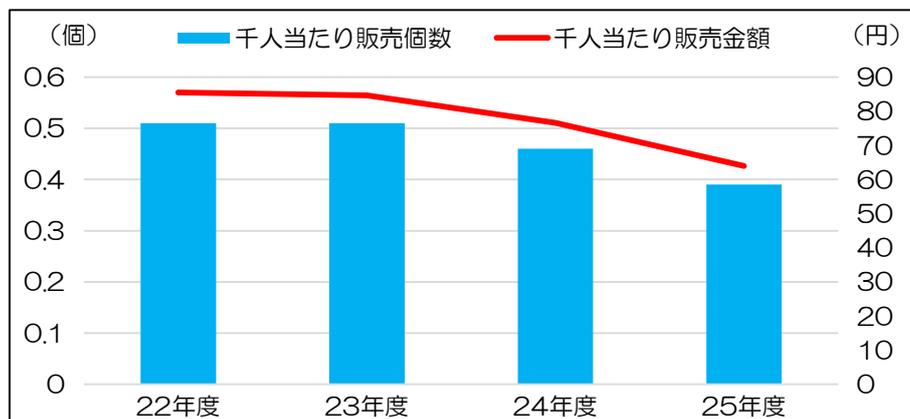


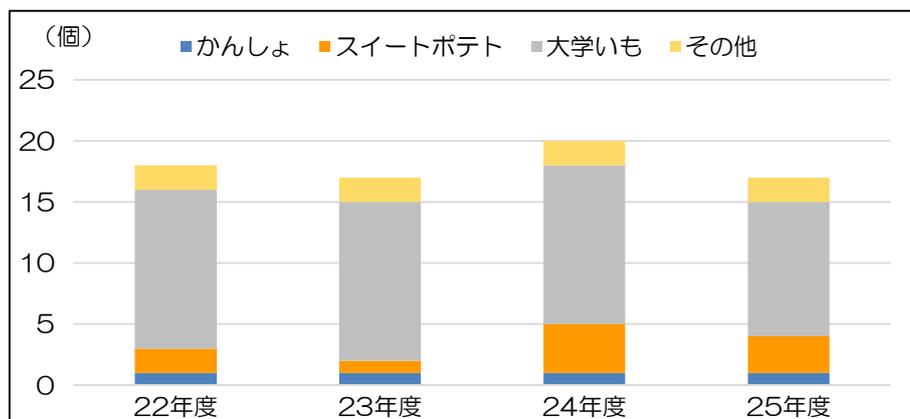
表 14 かんしょ千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
全体	86	85	77	64 ( 75 )
かんしょ	1	2	2	2 ( 121 )
スイートポテト	23	26	30	18 ( 77 )
大学いも	61	57	45	44 ( 73 )
その他調理	0	1	0	0 ( 71 )

注：( ) 内は対平成 22 年度の数値

図 25 かんしょアイテム数の推移



④ えだまめ

千人当たりの販売個数、販売金額は、需要期である夏季における需要の減少により緩やかな減少となっている。アイテム数も、減少傾向にある。

図 26 えだまめ千人当たり販売個数と販売金額の推移

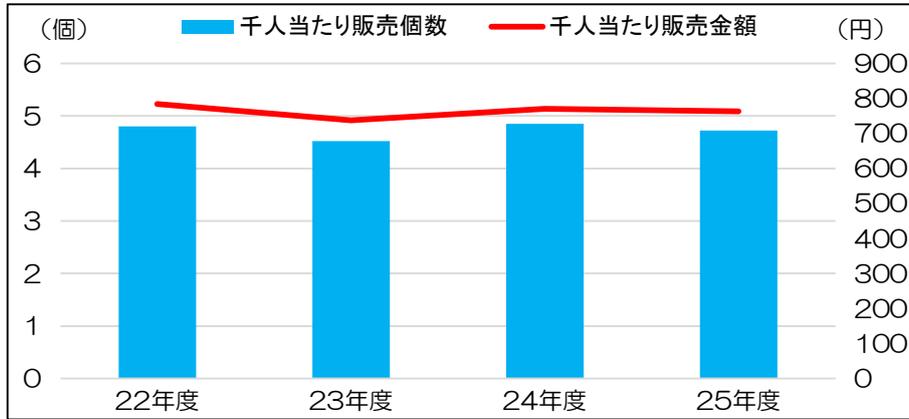


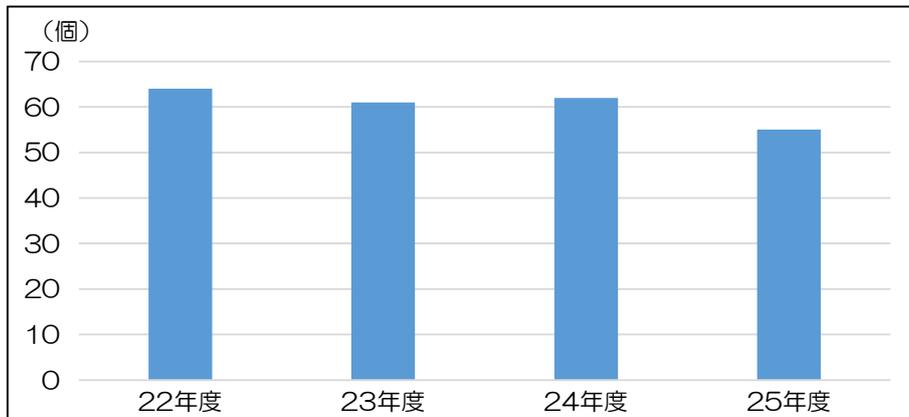
表 15 えだまめ千人当たり販売金額の推移

(単位：円、%)

	22年度	23年度	24年度	25年度
えだまめ	784	738	770	763 ( 97 )

注：( ) 内は対平成 22 年度の数値

図 27 えだまめアイテム数の推移



4 野菜を使用した冷凍調理食品の品目別動向

野菜を使用した冷凍調理食品の千人当たりの販売金額は、調理の簡便性から増加傾向にあり、餃子、ハンバーグ、たこ焼き、惣菜（野菜のかき揚げを除く）、好み焼き、ラーメンや丼などの具材 7 品目で全体の 90% を占めている。

22 年度と 25 年度の増減を品目別の寄与度（平成 22 年度に対する平成 25 年度の増加率 11.96% の品目別内訳）により品目別で見ると、水、油を使わない商品や羽つき商品の開発により餃子が大幅に増加し、次いでハンバーグ、お好み焼き、サラダ、野菜のかき揚げなどが増加し、惣菜、ちゃんぽんの具、中華丼の具、たこ焼きなどが減少している。

図 28 千人当たり販売金額の品目別割合  
(平成 22 年度と平成 25 年度の比較)

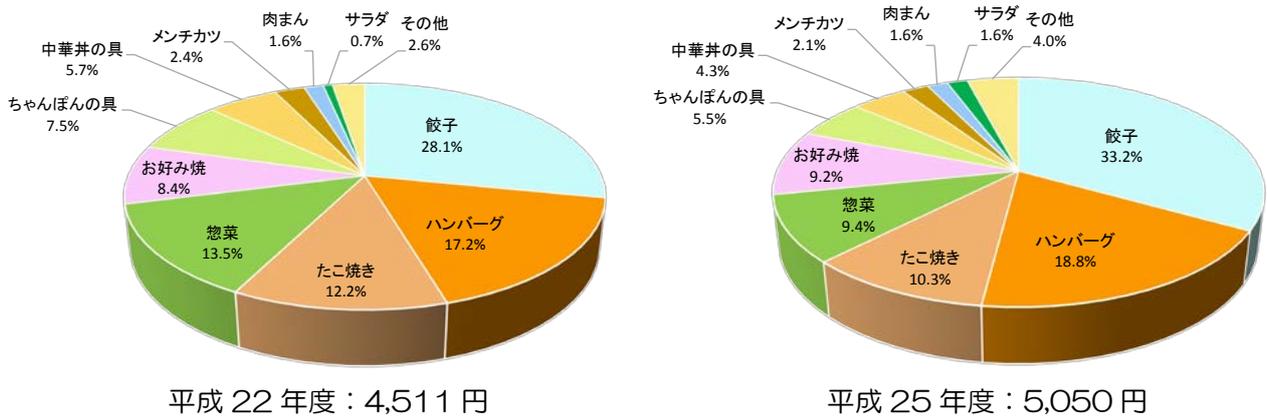


表 16 増加率 11.96%における品目別寄与度  
(平成 22 年度と平成 25 年度の比較)

(単位：円、%)

	22年度	25年度	増減	寄与度
餃子	1,269	1,677	408	9.05
ハンバーグ	777	949	172	3.81
お好み焼	381	463	82	1.81
サラダ	33	80	47	1.04
野菜のかき揚げ	24	56	32	0.71
たこ焼き	549	522	-28	-0.61
中華丼の具	259	219	-40	-0.90
ちゃんぽんの具	338	277	-61	-1.36
惣菜	607	473	-134	-2.96
その他	272	334	62	1.37
計	4,511	5,050	540	11.96

### Ⅲ 冷凍野菜全体の市場規模推計

日本冷凍食品協会の冷凍食品の国内生産額および輸入額に基づき平成 25 年度の冷凍野菜全体（冷凍野菜、野菜の名称がある冷凍調理食品、野菜を使用した冷凍調理食品）の市場規模を算出したところ、約 3,400 億円と推計される。

また、今回の POS データの収集対象となった中型総合スーパーおよび食品スーパーの販売金額は、全国の中型総合スーパーおよび食料品スーパーの販売金額の約 3.3% に相当すると推計され、これをもとに平成 24 年度の中型総合スーパーおよび食品スーパーで販売される、野菜を原料に使用する製品としての冷凍野菜全体の市場規模を算出したところ、約 1,250 億円と推計される。

表 17 平成 25 年度冷凍野菜全体の市場規模推計

	(百万円)	備 考
国産冷凍野菜生産額	28,385	
冷凍野菜輸入額	63,984	冷凍輸入金額157,210百万円×国産冷凍野菜生産額の家庭用割合40.7%
国産冷凍調理食品生産額	201,623	コロッケ、てんぷら、かき揚げ、ハンバーグ、ミートボール、焼売、餃子、春巻、中華饅頭、たこ焼き、お好み焼き、中華惣菜等
冷凍調理食品輸入額	41,318	フライ類以外（ハンバーグ、たこ焼き、お好み焼き等。ただし、野菜を使用していないものも含む。）
合 計	335,310	

資料：（一社）日本冷凍食品協会の国内生産額、輸入額ベースのデータ（平成 25 年）を基に、備考欄に記載した算出方法と該当品目の集計を基に機構が推計した。

#### IV 今後の冷凍野菜の消費

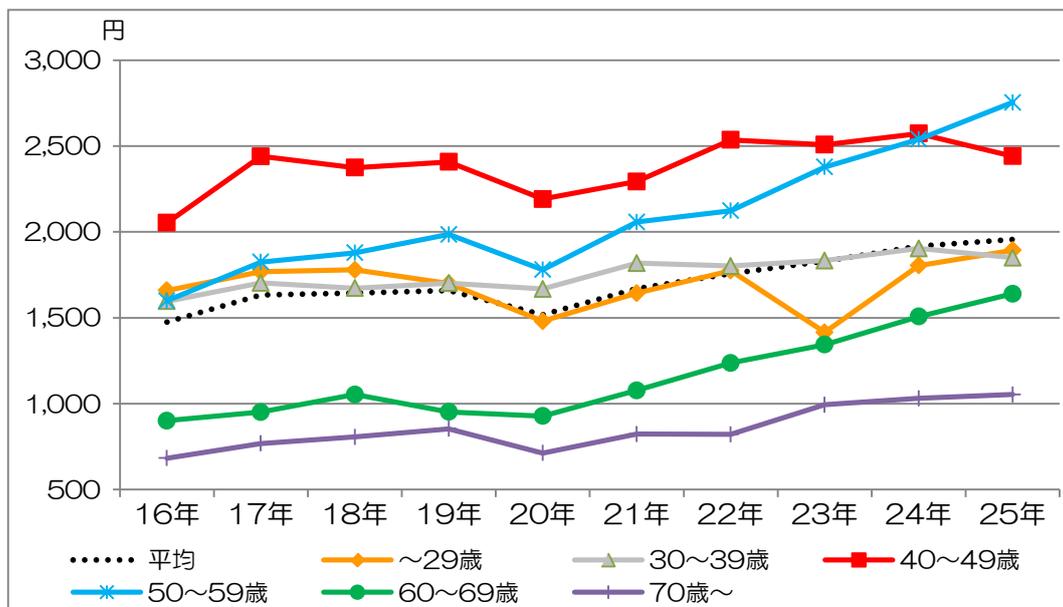
家計における冷凍野菜全体の消費は、調理の簡便性により、朝食や弁当需要の増加などにより増加傾向にある。

品目別では、かぼちゃ、ごぼうなどが減少する中、調理の簡便性や朝食、弁当需要などが堅調であることから、ほうれんそう、混合冷凍野菜（ミックスベジタブル、野菜ミックス）、ブロッコリーなどが増加傾向となっている。

野菜を使用した冷凍調理食品では、調理の簡便性から全体としては増加傾向にあるものの、ラーメンや丼の具材についてはレトルト食品との競合から減少傾向にある。

家計調査により冷凍調理食品の年齢階層別一人当たり支出金額を見ると、ほとんどの年齢階層で増加傾向にある。さらに 50～59 歳層や 60～69 歳層で最近では消費の増加が見られることも踏まえると、冷凍野菜全体の消費は、高齢化の進展を背景に調理が簡便な冷凍調理食品を中心に増加すると推察される。

図 29 冷凍調理食品の一年齢階層別人当たり支出金額の推移



資料：総務省「家計調査」